

# AIエージェントが拓く知財の未来：業務アシスタントから戦略的パートナーへ

## AI活用の4つの進化段階

**ステージ4：ポスト・エージェント（自律的な協調）**  
 エージェント同士が相互に呼び出し合い、協調して業務を遂行する未来。人間の周りはビジョン設計と最終評価に収まる。

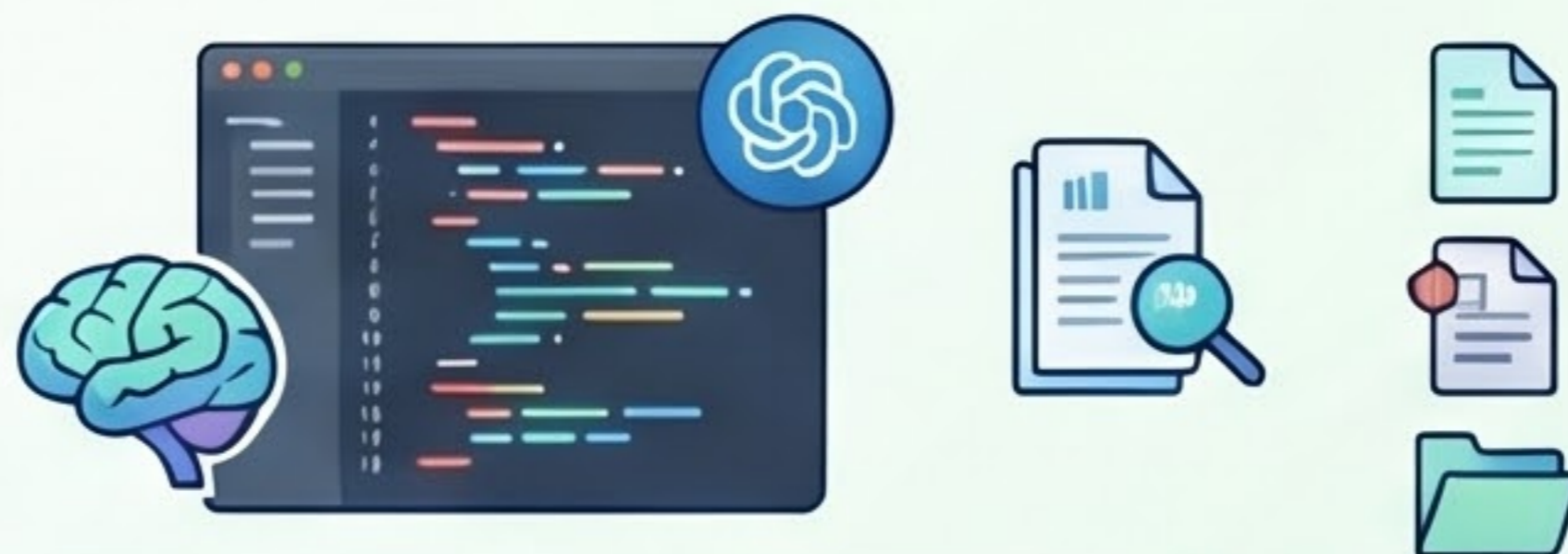
**ステージ3：戦略的パートナー（AIエージェント）**  
 人間の指示に基づき、AIが自ら計画を立て、外部ツールやデータを使いながら数十分～数時間にわたり自律的にタスクを完遂する段階。

**ステージ1～2：業務アシスタント（チャット・プロンプト）**  
 AIとの一問一答や、事前に設計されたプロンプトによる品質向上。あくまで人間が唯一指示を出し、AIが答える補助的な役割。

**ステージ3：戦略的パートナー（AIエージェント）**  
 人間の指示に基づき、AIが自ら計画を立て、外部ツールやデータを使いながら数十分～数時間にわたり自律的に。

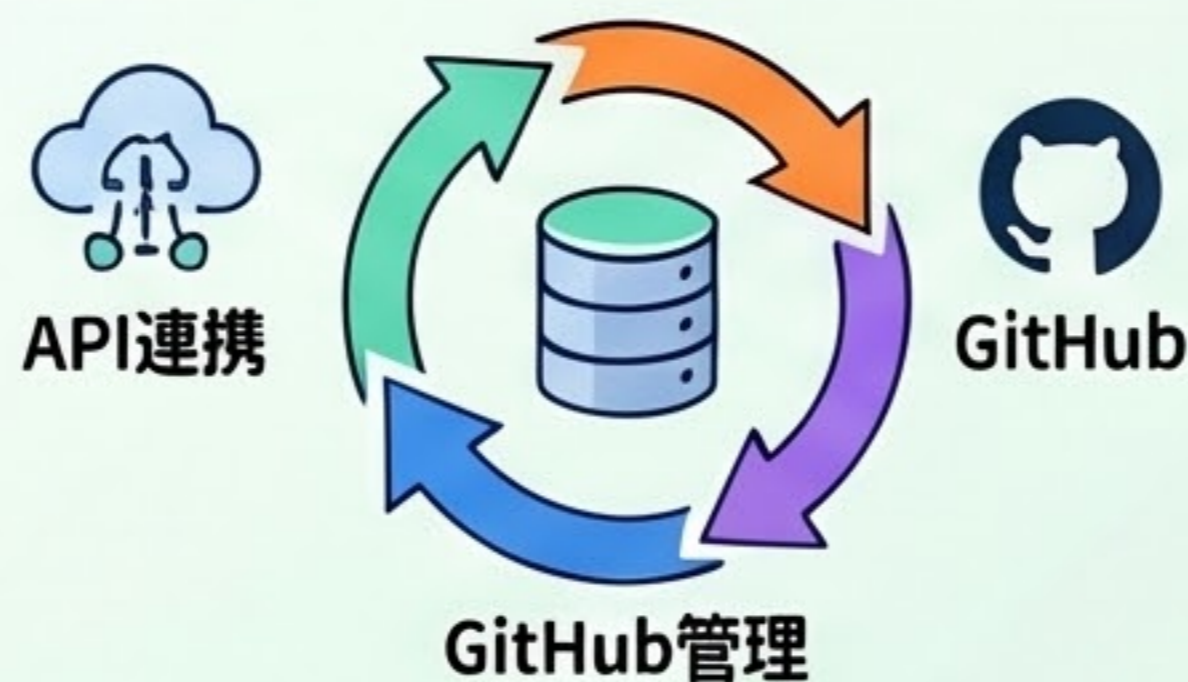
## MIXIにおけるAI活用の実績と仕組み

クラウド・コードによる「自律的な作業環境」



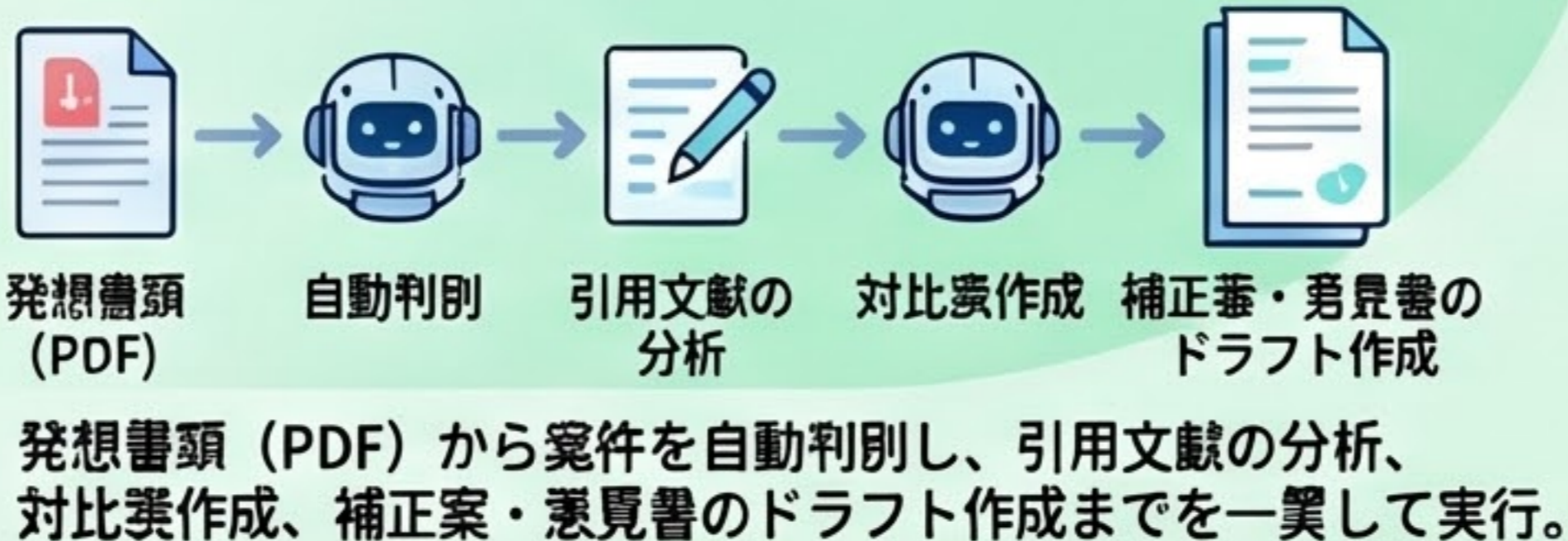
エンジニアが使用する開発環境（VS Code等）を知財義務に導入し、AIが隠蔽ファイルを操作・実行することで劇的な効率化を実現。

「つなげる」と「育てる」のサイクル

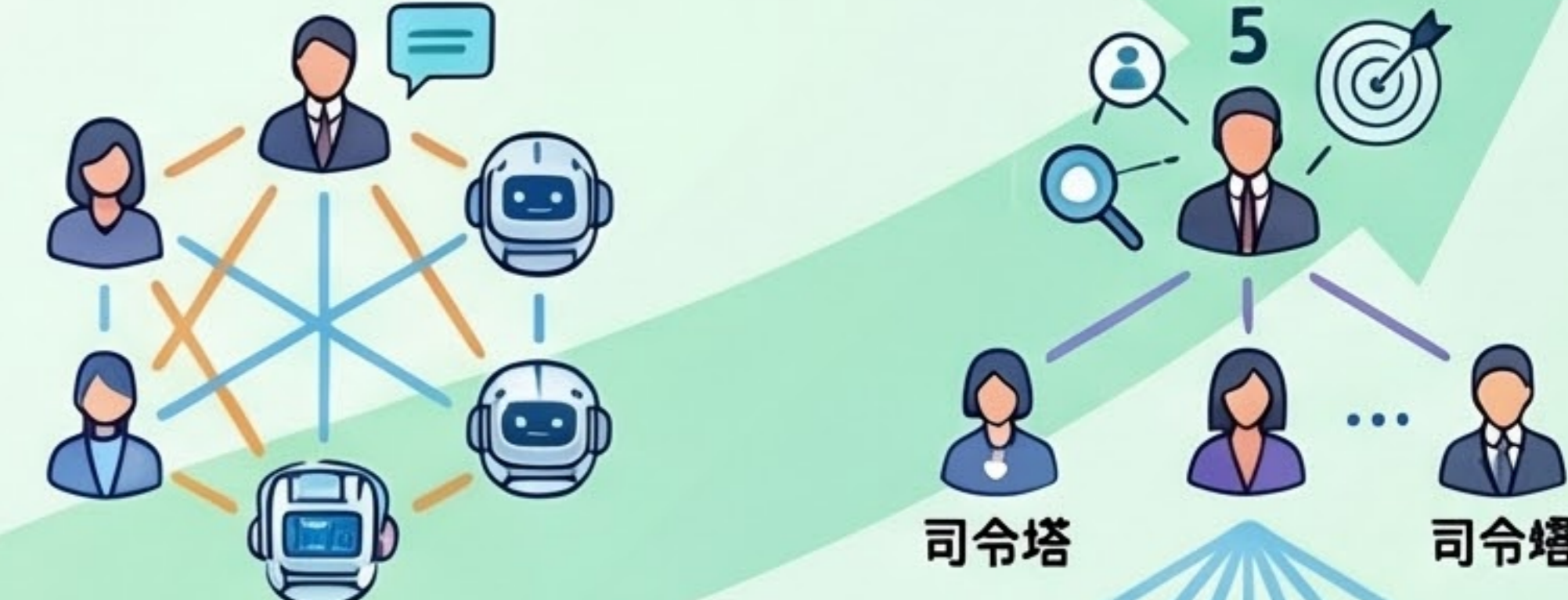


API連携でAIがアクセスできるシステムを増やしつつ、GitHub等でプロンプトや隠蔽ルールをバージョン管理し、チームの資産としてAIを育成する。

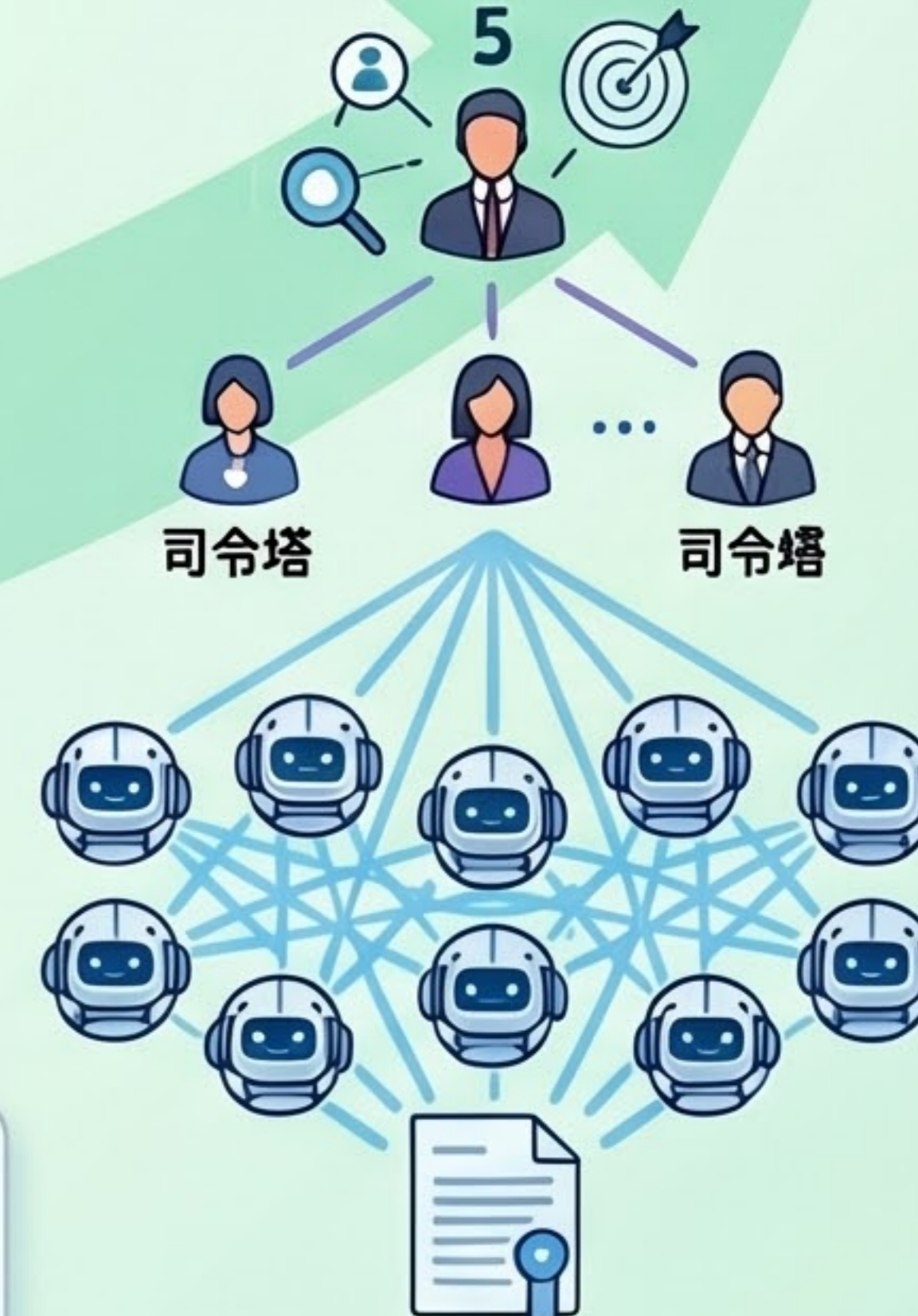
中間処理・調査の高度な自動化



## 次世代の知財組織モデル



**モデルB：人間・AI協調型**  
 現在の多くの先進企業が位置する括弧。人間とAIが同等の分量で作業を分担し、生産性を高めるモデル。



**モデルC：類説AI型（MIXIが目指す姿）**  
 AIが作業の大部分を担い、人間は「司令塔」として判断・戦略・評価に特化。5名のチームで30名分の出力を出す組織構造。

## MIXIにおけるAI導入による定量的なインパクト

**全社的な業務削減時間**  
 月間**17,600時間**  
 導入後の変化（寛譲・指摘）

**出願準備期間**  
 従来の数ヶ月から  
**「1週間以内」へ短縮**

**中間処理のAI間与度**  
 通常案件ではAIが全工程を自働実行（人間は要諦確認のみ）

**プロンプト資産の規模**  
 特許出願関連で約1.8万行、FTO規程で約1万行のノウハウ蓄積



**知財力の再定義**  
 今後の知財力は「人的リソース」や「コスト」ではなく、「AI活用力（仕組みの構築力）」によって決まる。